

明石市資源循環推進部会（第2回）議事概要

- | | | |
|---|-----|-----------------------------------|
| 1 | 日 時 | 2023年（令和5年）10月30日（月）10時30分～12時00分 |
| 2 | 会 場 | 明石市役所議会棟第2委員会室 |
| 3 | 出席者 | 委 員：7名
傍 聴 者：2名
事 務 局：7名 |

1. 開会

2. 部会長挨拶

（部会長）

皆様おはようございます。朝からお集まりいただきありがとうございます。とても良い気候になってまいりました。

ごみと言いますと、私が住んでいる地域でお祭りがありました。祇園祭などとは比べようがないのですが、それぞれにカラクリを乗せた山車が13基ぐらいあり、それぞれ一定の場所に来るとそのからくりを見せ、ちまきを撒くというお祭りです。大変賑わうのですが、そのお祭りのときに駅前ところでテントがあり、ゴミを拾いませんかという呼びかけがありました。これはやはり『やらないといけない。』と思い、レジ袋のような袋と、トングをお借りして、『さぁやるぞ。』と張り切りましたが、ゴミが全くありませんでした。

屋台などの食べ物を販売している場所の近くも探してみたものの、そこにもありませんでした。小さい子供と一緒に拾うというより、探している感覚でしたがそれでもなくて、ようやくレシートごみを見つけて、テントに戻り、『ごみがありませんね。』と申し上げたところ、朝から同様の活動を子どもたちが行っているの。との回答をいただきました。

しかし、私が要因を推測するに一つは遠来のお客さんがあまりなく、自分たちの地域だという意識が強かったのではないかということと、もう一つは子どもがごみを拾っている中、なかなか捨てるわけにはいかないと感じる人が多かったのではないかと思います。

例年すぐくごみが出るお祭りも中にはあると聞いておりますが、大谷選手がごみを拾うとか、スポーツの試合観戦の後に日本のサポーターはゴミを拾うとか、世界でも日本人のごみに関するマナーについて、かなり浸透してきているので、ぜひ日本のお祭りに関しても、ハロウィンや花火大会のように終了後に大変な量のごみが捨てられてしまったと話題になることがなく、綺麗なお祭りになればいいなと思いました。

先日は環境フェアが開催されたと聞いており、広報誌においても『ごみ減量、出来ることから始めませんか。』という特集をされております。加えて、ゼロ・ウェイストあかしの創刊もされたと聞きました。

明石はとても豊かな自然資源もお待ちだと思いますので、ぜひごみのない素敵な街になればいいなと改めて思ったところでございます。

今日は資源循環推進部会ということで、皆様どうぞ忌憚のないご意見をいろいろ賜れたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

3. 議事 <報告事項>

【第1号】「明石市一般廃棄物処理基本計画」の変更（素案）に対する意見公募結果について…資料1

意見公募結果について、事務局より説明を行った。

≪質疑・意見≫

(部会長)

市の考え方については、市のホームページ等で公表する予定はあるのか。

(事務局)

審議会が終わった後に、ホームページで意見募集結果という形で公表を予定している。

(部会長)

市の考え方の1ページ目の下から3行目付近の「大きな要因」の文言は、本計画の変更を要する要因となる状況であり、公表するのであれば、修正したほうがよいかと思う。

またプラ分別の件で様々な意見が出ているが、どういった分別方法がいいかということも大切であるが、その前になぜ分別が必要となっているのか、今どういった状況なのかを市民の方に丁寧に説明していただきたい。

さらには、ごみとして出たものを分別することを今考えているが、出さないようにすることが大切ではないかと思う。

指定袋や有料化の議論をする前に、どうしてこの議論に至ったのかということをも市民の皆様と考えていただき、現状の負担が公平ではないことを伝えていただきたい。

結局廃棄物は出たら必ず処分・処理が必要で、ごみを出す人全員が自分の責任だと気付かなければ、減らす段階に至らないので、そのあたりを周知していく必要がある。

集団回収に関する意見についても、市が全てを回収すれば自分の手間がかからないというのは、実は全て税金でその費用負担をしていると考えた時に、それでいいのかと思っていただきたい。

最終目標はごみを減らすということなので、目先の問題に対する解決策に目を奪われがちであるが、その奥にある『減らす』ということを進めていくために、みんなで同じ方向を向く必要があると思う。

(委員)

分別したごみが一体どこへ行くのかということ伝えていく必要がある。

分別したプラスチックやペットボトルは、市民からすると収集されると終わってしまう

が、そこからどこに運ばれて、どのようにリサイクルされているのかが分からないため、どれだけ力を入れて分別すればいいのかが見えにくいと思う。

近隣の自治体も参考にし、今後の方向性等が見えれば、もう少し具体的に行動に移していけるのではないのかと思う。

実際には現在、集めたペットボトルはどうなっているのか。

(事務局)

ちょうどケーブルテレビの撮影があり、11月6日からの放送回で説明している内容となる。どのように処理されているかわかりにくいとの意見が多く、回収してきたペットボトルを圧縮梱包されたベールを撮影し、最終の再資源化の途中ではありますが、明石市のベールの状態が伝わる内容になっているかと思う。

また、ごみ減量推進員・協力員向けの研修会を同時進行で進めており、その資料の中でも、明石市のベールと容リ協会でランク付けされている上位のベールを比較資料として掲載しており、明石市内の回収したペットボトルの現状を説明している。

行先については、容リ協会にベールの状態で買い取っていただき、処理までお願いしている。最終は、服や燃料等になり循環している。

(事務局)

補足ではあるが、いわゆるリサイクラーと呼ばれる業者がペットボトルを集め、小さなペレットのような欠片に碎き、製品の原料にしている。

例えば、最近ではBtoBと呼ばれているように、もう一度ペットボトルになるものもあれば、スーパー等でよくみる白トレーとしてリサイクルされたり、汚れているペットボトルであっても緩衝材に変わることもある。ペットボトル自体が原料として今注目されているというのが現状である。

(部会長)

最近流行りのマイクロビーズクッション等も同様に中身がプラスチック。処分をどうするのかといった問題が発生していると聞いている。

売れてはいるが、これも同じで使われたらリサイクル業者にもって行って万歳といった循環を目指すのではなく、最終的にどうなるのかを考え、減らすことを重点的に考えるべきだと感じる。

その中で、どのように処理されているのかを知ることは非常に大切で、和歌山市では、市内のリサイクル業者と連携し、全小学生が施設見学を行う。そこでどのようにリサイクルされるのかを示しながら、最終的には人力で分別するところまでをあえてみせるといった面白い取組をしていると聞いている。また、臭いについても体感することで、しっかりとペットボトルやビンを洗って捨てないと、リサイクル業者の人たちが困ると強烈に印象に残る。リサイクル業者等の見学も大切ではないかと思う。

(委員)

私もごみのその後について、しっかりとお知らせをしないと心が変わらないと思う。

例えば、職場においても段ボール回収等を行う時に、綺麗に積み上げてほしいと職員に伝えるときは、その先の仕分け作業についても説明し、汚く積み上げてしまうと仕分けを行う人に迷惑がかかってしまうことや、配送時に崩れてしまうリスクが発生することを伝えている。その先の作業を仮に自分が行うことを考えると、一人ひとりの行動が変わっていくと思うので、そこが大切だと感じる。

(部会長)

教育も同じで、今見えていることを知ることは誰でもできるが、将来、未来のことを考える人になるように教育してほしいと思う。ごみについても、子どもだけでなく、大人に対しても決まった日、場所に出したらそれで終わりではなく、その先の処理や将来についてもわかってもらえるような啓発を明石市から発信してほしい。

<協議事項>

【第1号】「明石市一般廃棄物処理基本計画」の変更(案)概要…資料2

明石市一般廃棄物処理基本計画の変更(案)概要について、事務局より説明を行った。

≪質疑・意見≫

(部会長)

パブリックコメントにもあったが、今回少し踏み込んだ内容を変更案に記載してある。今後令和13年度までに、新しい施設の概要等が見えてくるということで、再度計画を見直すということでもいいのか。

(事務局)

今の予定では、中間年度にあたる令和8年度に今回のような一部の変更ではなく、計画全体の変更、見直しを行う予定。

(委員)

内容ではないが、4ページ目の新ごみ処理施設整備基本計画の追加についてだが、『4-9』とあるが、計画を見ると番号にズレを感じる。

(事務局)

説明が不足しており申し訳ないが、本編13ページに新たに『4-5. プラスチック資源循環促進法(令和4(2022)年4月施行)』を追加しており、そこから全ての番号にズレが生じている。

(副部会長)

変更についてはこれでよしとし、先程も話の中であったように、今後は啓発の話になってくるのかなと感じている。啓発に関する工夫は難しい課題とは思いますが、インパクトがあるものを考える必要があると思う。

例えば、さかなクンとの契約が継続しているのであれば、イベント等にお越しの際に、海洋プラスチックについて話していただいたり、広報あかしで取り上げたりしてみてはい

かがか。

(事務局)

さかなクンについては、所管のシティセールス課と連携し、検討していきたい。

(委員)

市民一人ひとりが、自分の出しているごみを多額の費用を使って処理されていることを知らず、ましてや税金を使っているといった意識が低いのではないかと感じる。

分別等のごみの出し方についての意見が多く寄せられているとは思いますが、ごみ問題の根幹の部分をもっと伝えていく必要があると思う。

プラスチック分別の話もあったが、30年程前であればペットボトルを回収し、リサイクルを行い、定規等に変わって戻ってきていた。リサイクルしたものが日常生活で目に見えていたため、循環を身近に感じることができた。しかし、今では国内で発生している多量のペットボトル等を、利用しきれずに海外に輸出しているケースもあると聞く。国内で循環出来ていない量をどうやって国民に循環を促すのか矛盾を感じている。

明石市だけの問題ではないが、ペットボトルを含め世界ではプラスチック製品を作りすぎてしまっているように感じる。

今回変更する基本計画は、市民に向けては伝わりにくいことかとも思うので、市民に向けての啓発を行う際には、ごみ処理費用等をもっと開示して、費用負担を感じていただいた後に減量に繋がれば嬉しいなどと思う。

また分別を進めると決まった際には、プラスチックごみの行方がわかりにくいので、しっかりと広報し、せつかく分別したごみを全て焼却してしまうことのないようお願いしたいと思う。

(部会長)

海外へ輸出されている話があったが、最初は中国へ大量に輸出していたものの、次第に中国国内で排出されるプラスチックの量が増加し、新たな輸出を受け入れてもらえなくなり、別の東南アジア等の諸国へ輸出先を探すといったことを繰り返している。

これは環境問題の輸出に相違なく、今こそ原点に戻り、なるべくごみを出さないようにすることが大切で、そういった工夫を明石市から発信してほしい。

最終的には、ごみをごみとせず、資源にするといったヨーロッパのサーキュラーエコノミーのような考えに改めないと、地球環境がパンクしてしまうと感じる。

(委員)

私の幼少期は、テレビや冷蔵庫、扇風機、クーラー、電気ストーブもない時代だったけれど、不便は感じていなかった。

しかし今現在をみれば、ごみの日を見ても、トレーやペットボトル等の石油系のごみを大量に排出していて、こんな暮らしをしていていいのかと感ずることがある。

便利なものを手放すことは難しいが、現状を技術の力と行政の知恵でよい方向に打破して欲しいと願う。

(部会長)

プラスチックが使われ始めたのが 1970 年代ごろで、昭和 40 年代にやっと出てきたものが今やここまであふれている。便利なものはいいと思うが、無駄はよくないように感じる。

プラスチックとは別であるが、例えば食品ロスについても、これだけ海外から輸入しておきながら、大量に廃棄している現状が考えられない。

まだ食べられるのに捨てられている量が世界全体の食糧援助量を超えているのが現状。

食品ロスにおいては、無駄なものは買わない。あるいは、袋やトレーはいらないと残していけば、そのお店は量り売りに変わることもあるかもしれない。そういった啓発を市民一人ひとりにできればと思う。

(委員)

情報提供にはなるが、14 ページに記載のある兵庫県の廃棄物処理基本計画ですが、ちょうど見直しのタイミングであり、先週からパブリックコメントの募集をしている。名前についても、兵庫県資源循環推進計画と改める可能性あり。今パブリックコメントの募集の段階で、本計画に記載するかどうかは判断しかねるが、令和 8 年まで現状記載のある計画のままでいいのかとも思うので、『改定作業中です。』等の文言を付して記載してみてもどうか。

(事務局)

スケジュール等も含めて、検討する。

【第 2 号】今後のスケジュール…資料 3

今後のスケジュールおよびゼロ・ウェイストあかし等について事務局より説明を行った。

≪質疑・意見≫

(委員)

ゼロ・ウェイストあかしは、定期的に発行するのか。

(事務局)

まだ確定ではないものの、四半期に一度程度の定期配信を目指そうと考えている。

(部会長)

費用についての話はどこかに記載はあるのか。

(事務局)

広報あかしには掲載されているが、重複情報になるため、ゼロ・ウェイストあかしには掲載していない。しかし、本日の部会での協議を受けて、今後定期的に情報発信を行うべきであると感じている。

(部会長)

費用総額の記載だけではなく、例えば世帯当たりいくらになるのか、自分たちのためにどれほど処理費用がかかっているのかを視覚化することも大切だと感じる。

(委員)

先日、ごみ減量をテーマとしたタウンミーティングに参加したが、フードロスについて、大きなショックを受けた。

中学校給食がおいしくなく、残飯が多くなり捨ててしまっていると中学生が自ら発表していた。フードロスの観点からも環境室から給食に関する所管課へしっかりと伝えてほしい。安ければいいといった感覚で給食費が制限されているから、納入業者が大変お困りかと思う。体づくりの大切な時期にある中学生が、給食を食べられないというのは、本当に衝撃的な一言であった。思いがけずフードロスの課題があったと感じた。

(事務局)

タウンミーティングの内容については、それぞれの意見を関係部署へすでに伝えられている状況です。

フードロスの観点からでいくと、各学校の先生がなるべく食べきりよう声掛け等を行い、協力していただいているように聞いている。環境室としても、今回のご意見を踏まえ、教育委員会へお伝えさせていただく。

(委員)

テレビからの情報であるが、東京都のほうでは給食のフードロスを問題視し、コストをかけて美味しさを担保し、『おいしい給食』とってレストランのようにしている自治体があった。この取り組みによって目に見えて課題が改善していると聞いている。

(部会長)

中学校では少し難しいかもしれないが、小学校では野菜等を自分たちで作ることで、苦手な食材も残さず食べられるようになるといった事例も聞いたことがある。そういった取り組みも大切かと思う。

また業者を選定する際、どうしても価格を優先で決めなければならない止むを得ない事情があることも理解するが、元気な中学生にはやはりおいしい給食を行政として届けてほしいと思う。

4. 副部会長挨拶

(副部会長)

うまくまとめるのが難しいが、本日この部会において、知らなかったことをたくさん教えていただき、大変勉強になった。引続きよろしくお願ひしたい。

5. 閉会

以上